

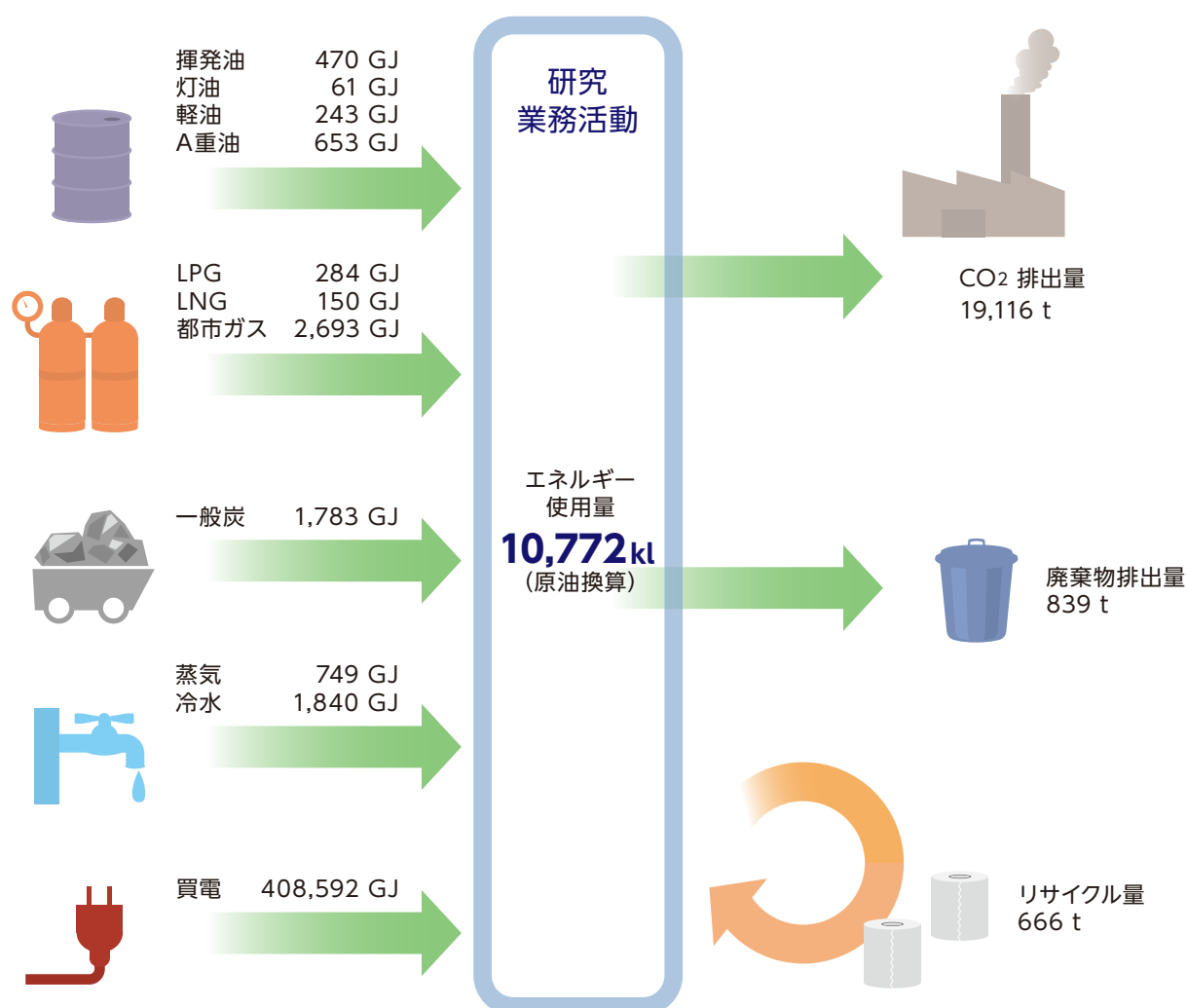
当所は、環境行動指針として、豊かで持続可能な社会の創造を目指し、地域社会はもとより地球規模の環境保全に関する研究開発を推進して成果を社会に役立てるとともに、「環境に配慮した研究所運営」を経営の重要課題の一つに位置付け、継続的な改善活動を実施しています。

環境行動指針：<https://criepi.denken.or.jp/intro/info/ems/index.html>

2020年度の当所の環境活動に関するパフォーマンスデータは次の通りとなっています。

研究所全体のエネルギー使用量は、原油換算10,772kl(前年度比1.6%増)、CO₂排出量は19,116t(前年度比1.2%減)でした。大型設備の撤去等を進めたことにより、廃棄物の総排出量は839tと前年度から30.3%増となりましたが、リサイクル率は79.4%となり、前年度に比べて5.2ポイント増となりました。引き続き、環境パフォーマンスの改善に努めてまいります。

[エネルギーのInput,Output]



2020年度に実施した主な環境活動は以下の通りです。

太陽光発電設備の活用

当所では、太陽光発電を活用しており、2020年度の年間発電量は、横須賀地区で約74.1MWh、赤城試験センターでは12.7MWhとなりました。加えて、赤城試験センターでは、研究・試験用として別途設置している太陽光発電設備で発電した電力も地区内で有効活用し、合計で約5.6tのCO₂排出量を削減しました。さらに、我孫子地区でも、2020年に竣工した新本館の屋上に設置した太陽熱集熱パネルを空調用再熱熱源として利用しています。

森林保全・整備活動

赤城試験センターは、緑豊かな赤城山の南麓（標高約500m）に位置しています。周辺の森林保全の一環として、2000年から枯松を中心とした樹木を伐採し、コナラ、クヌギ、ヤマザクラなどを植樹して樹種転換を図ってきました。2018年度までに周辺森林保全の活動が概ね終了したことから、2019年度からは、構内環境整備として危険木および倒木を中心に伐採を行い、2020年度は約770本を伐採しました。また、2020年度は、前年度に引き続き、地域との調和を図り、同センターに隣接する「みやぎ千本桜の森公園」との境界付近にジンダイアケボノ約30本を植樹しました。

我孫子地区でも、既存緑地の適切な保全の観点から、針葉樹を中心に130本程度の樹木伐採を実施しました。加えて、新本館の陸屋根にグリーンルーフを設置するなど、自然との調和を図っています。

省資源・省エネへの取り組み

グループウェアを積極的に活用することにより各種会議体におけるペーパーレス化の実現、またコロナ禍を契機としたWeb会議の増大などにより、コピー使用量を前年比で約44%削減することができました。また、当所では5月から10月をクールビズ期間として定め、軽装などにより冷房使用時の室温を28度に設定するとともに、年間を通して、労働環境に支障のない範囲で照明の間引きなどを行うことにより節電に取り組んでいます。また、一部の地区では、リアルタイムでの電力消費状況の見える化や、建物へのグリーンカーテン設置を行うなどの工夫も凝らしています。



赤城試験センターの太陽光発電設備



赤城試験センターの植樹の様子

横須賀地区

- ・2020年6月、当地区における多年にわたる危険物の安全管理や防災思想の普及高揚、地域防災への協力に対して、一般社団法人神奈川県危険物安全協会連合会から優良危険物事業所として表彰されました。
- ・2020年9月に横須賀市教育研究所において、エネルギーに関する講演と実験工作教室を実施し、横須賀市主催の土曜科学教室の開催に協力しました。
- ・参画している主な地域団体、役職：神奈川県労働安全衛生協会 横須賀支部 役員
横須賀市地球温暖化対策地域協議会 理事(会長)
神奈川県電気協会横須賀支部 理事(支部長)



科学教室の様子

我孫子地区

- ・2021年1月、セーフティドライバーズちば2020への参加や安全運転管理者協議会の理事職担務、電研橋への安全運転横断幕掲示などの交通安全活動へ貢献し、我孫子警察署長より感謝状が授与されました。
- ・参画している主な地域団体、役職：千葉県立現代産業科学館 理事
柏労働基準協会 理事
我孫子市国際交流会 理事



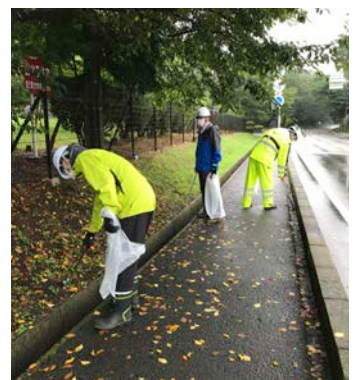
感謝状授与の様子

粕江地区

- ・地域の消防関係団体や粕江災害防止協会の消防業務への長年にわたる貢献として、2020年10月に粕江市市制施行50周年記念行事において粕江市から消防功労の感謝状が、2020年11月には、粕江消防署から火災予防業務功労の感謝状が授与されました。
- ・参画している主な地域団体、役職：粕江災害防止協会 副会長・部会長など
武蔵野・調布地区電力協会 監事

赤城試験センター

- ・2009年から構内2ヶ所をドクターヘリの離発着場として提供し、地域の救急医療行政の推進に協力しています。
- ・2020年7月に、国道353号線周辺の企業などで構成するNPO法人「赤城自然塾」の会員として、国道約2.8kmにわたり歩道の草刈り作業に協力しました。
- ・参画している主な地域団体、役職：群馬県電気協会 委員
前橋市防火管理者協会 理事
赤城自然塾 会員



国道草刈り作業の様子

新型コロナウイルス感染症への対応・対策

2020年度は、新型コロナウイルス感染症が日本国内でも全国的に広がることとなったため、国内外における感染状況や国の対応等を踏まえ、当所においても役職員だけでなく来訪者等への感染予防・感染拡大防止対応を定めた事業活動のガイドラインを作成し、感染防止に掛かる最大限の対策を整備し行動しました。本ガイドラインでは、基本的な感染防止対策としてのマスク着用や手洗い、手指消毒、3密回避などを徹底することを定めるとともに、在宅勤務制度の全役職員への暫定的な適用、通勤など移動時の自家用車利用などを許可し、出勤に伴う不特定多数の人との接触・接近を低減する措置を講じることや、国外出張の禁止および国内出張の厳選により、役職員の感染リスクの低減を図ることとしました。また、感染が疑われる場合の対応フローを確立し、罹患者発生時の初動対応を策定するとともに、罹患者および感染が疑われた者に対するケアや差別的言動の抑止等への配慮を周知し、感染防止および事業継続のための基本体制を構築しました。

さらに、ガイドラインの作成に合わせ、当所のIT・ネットワーク環境の整備を迅速に進め、ほぼすべての職員が在宅勤務等の特殊な勤務状況下においても業務を遂行できる体制を整え、加えて、各地区における感染防止対策として、消毒液の配備、執務室や会議室などにおいて飛散防止パネルの設置や座席数削減によるソーシャルディスタンスの確保など、各種対策も行いました。

安全意識の向上・災害への備え

事故やヒヤリハットが発生した場合に、速やかに連絡がとれる体制を整えるとともに、発生事例・対応・改善点などを役職員で共有し、再発防止を図っています。また、薬品・高圧ガスや放射線などを扱う業務の従事者を対象とした各種教育や、救命講習などを、対面形式およびWeb配信形式において実施し、役職員一人ひとりの安全意識の向上に努めています。さらに、地震や火災などの災害にも備え、各地区で自衛消防隊を組織し、消防署の協力を得ながら定期的に訓練を実施しています。加えて、役職員の被災状況を速やかに確認できる安否確認システムを運用しており、全ての役職員を対象とした安否通報訓練も定期的に行っています。

2020年度の主な講習会の開催実績

講習会の種別	開催回数	参加者数
薬品・高圧ガス	5回	約390名
放射線	6回	約450名
防災・救命救急	8回	約1390名



防災訓練の様子(我孫子地区)

長時間労働・メンタルヘルス対策

長時間勤務者に対して、労働安全衛生法に則りつつ、法令を上回る基準により医師による面接指導を実施しています。メンタルヘルス対策としては、各地区の健康相談室への常勤看護師の配置、メンター制度やコンディションケア・サービスの活用、希望者に対する外部カウンセラーによるカウンセリングの提供、役職員とその家族が利用できる外部専門機関による支援サービス「メンタルヘルスサポートネット」を用意しています。また、定期健康診断やストレスチェックの結果に対し、産業医・看護師が適切にフォローを行っています。役職員等の心の健康の維持・増進を図るとともに、職場環境の改善に努めています。